



単会の活動紹介 アクティビティ



大館市

令和6年2月20日(火)に大館市倫理法人会女性委員会主催の「健康講座&ランチ会」を開催し、32名の参加を頂きました。毛細血管観察と体組成計測定を行い日頃の栄養状態や身体の水分・脂・筋肉の量を知ることができました。

毛細血管観察と体組成計測定が終わった後は、会場となった料亭「北秋くらぶ」のランチで舌鼓を打ち、食後のデザートに単会会長である藤盛会長からイチゴショートケーキの差し入れを頂き、和やかな会を開催できました。

女性委員会では、女性経営者や女性幹部の方、また女性社員に魅力あるイベントを通して、会員相互の親睦と未会員の普及に繋げて行きたいと考えております。

大館市倫理法人会 女性委員 佐々木真理子



秋田山王

秋田山王倫理法人会では特に、「モーニングセミナー」に力を入れており、会員はもちろんですがたくさんの方に参加いただけるように活動しております。会場は千秋公園内にある、秋田文化産業施設「松下」にて、毎週金曜日6時30分より開催しております。会場は大正時代創業の「割烹松下」をリノベーションした施設の2階にある約80畳の大広間で、畳の演台と金屏風も際立って華やかな演出をしてくれます。厳かな雰囲気もそのまま残っており、朝から引き締まった気持ちで学ぶことが出来ます。その日の講演も楽しみですが、ちょっと緊張をほぐしてくれる、会長挨拶も必聴です！終了後は、松下の1階にある「松下酒房」で軽食をとりながら、講師を囲んでの意見交換などを行っております。

モーニングセミナー終了後は、桜やツツジ、新緑、紅葉、雪景色と、季節によって模様替える千秋公園をちょっと散歩して、気分転換するのもおすすめです。

是非一緒に、朝の学びを楽しみましょう！

秋田山王倫理法人会 広報委員 二方克明



【お詫びと訂正】Vol.3の4ページ、大曲の単会紹介の中で、「県倫理法人会伊藤達郎相談役」は「伊藤辰郎相談役」の誤りです。

私の倫理愛読書

ともに生きる

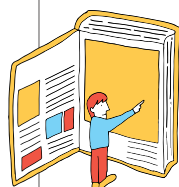
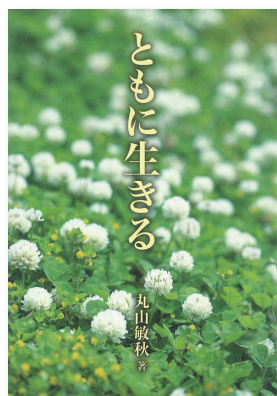
丸山敏秋 著

「我々は人類文明の大転換期に生きている」著者が何年も前から言い続けています。

例として、人類は未来のエネルギーを何に求めたらよいのか？を問うきっかけとなった 3.11 でした。その他の歴史を振り返り近代文明が成し得た成長と破壊を紐解いています。この大転換期を生き抜くためにしなやかな強さを養う必要があると導いています。

この書は「新世」の巻頭言の中から三十三の話をまとめています。私は普段の生活の中で家庭や仕事、人間関係において迷ったり悩んだり、またふと気がつくことがあった時、菜とともに生活の法則のヒントになる一話を探して読んでいます。一話一話が完結していて読みやすい書です。是非皆さんも一読してみてはいかがでしょうか？

秋田県倫理法人会 副会長 佐々木徹



書籍紹介 コレがおススメ

秋田県倫理法人会会報誌

RINGS

Vol. 04
2023-2024
AKITA-RINRI

企業に倫理を 職場に心を 家庭に愛を
希望を高く 掲げよう 自ら動こう 1005 社
新たな時代を 突き進もう！

秋田県倫理法人会では、心の経営を目指す人々のネットワークを拡げる活動をしています

モノづくりは、
まずヒトづくりから
― 挨拶、掃除の励行 ―



秋田県倫理法人会

秋田県倫理法人会会報誌リングス
発行日／令和6年5月20日 ■発行／秋田県倫理法人会 広報委員会 〒010-0951 秋田県秋田市山王3-3-9 電話018-865-1781
デザイン・編集・印刷／鶴田印刷株式会社



心の経営探訪

モノづくりは、まずヒトづくりから — 挨拶、掃除の励行 —

株式会社 寒風 代表取締役副社長 菅原 広大 さん

秋田県男鹿市脇本脇本字前野1-1
TEL:0185-25-2222 FAX:0185-25-2223

昭和21年、前会長の菅原庚橘氏が菅原石材として創業、石材の採掘・販売業を営んでいます。創業者は、今回お話をうかがった菅原広大さんの祖父で、昭和町（現在の潟上市）から男鹿市へ移り住み、寒風山で男鹿石の採掘に取り組んだことが事業のスタートでした。

男鹿石が原点

当社の原点ともいえる男鹿石は、火山が噴火してマグマが急激に冷やされて出来た安山岩です。分かりやすく言うと墓石のように光っている石ではなく、庭石やお城の石垣、河川敷に積まれている石に使われるような外構に適したものです。

一例を挙げると、30年前に施工し、昨年改修を行った横手川河川敷の石積工事などがあります。また、皇居や首相官邸など県外の案件も積極的に受注しています。

現社長は私の伯父で、大学の商学部へ進学して経営の勉強をし、卒業後すぐに会社へ入社しました。私の父も祖父から土木の勉強をするように言われ、大学卒業後、秋田県庁の土木の部署で約7年間勤務した後、会社へ戻ってきました。それ以降、土木の部門にも力を入れるようになり、おかげさまで平成28年には、創業70周年を迎えることができました。



横手川の石垣（横手市）

オリジナリティを取り入れた朝礼

30年ほど前、父が建設業の現場に携わる中で、現場の人たちが朝礼をする習慣がなく、始業時間になると社員が持ち場に散っていき、当日の作業内容の確認もきちんとなしなまま仕事が始まる現状を変えたいという気持ちから秋田北倫理法人会に入会しました。

入会後会長を務め、会長職が終わる頃に男鹿の倫理法人会立ち上げに関わることにしました。最初は会員数も少なかったので、男鹿市準倫理法人会としてスタートし、何とか100社集めて男鹿倫理法人会となりました。

本社では、毎日活力朝礼を行っています。採石場や加工場は週に1回は朝礼巡回として社長や役員が出向き、一緒に朝礼をし、それ以外の日は自主的に行っています。

当初は、活力朝礼を行うということに対して不信感を持つ社員もありました。当時、オウム真理教のようなカルト教団が話題になっていたこともあり、似たようなものではないかと抵抗感を持つ社員も多かったようです。

そのような状況の中で父が音頭を取り朝礼を続けましたが、定着させるまでかなりの時間がかかったと聞いています。いまでは活力朝礼を実施する環境が普通になり、毎朝「職場の教養」を社員みんなで読み合わせすることで、社員教育になり、会社も成長できるのかなと思っています。

「セブンアクト」もとり入れています。それ以外にも、「あいまい言葉でごまかさない」、「悪い報告はすぐにする」、「苦手な相手にこそ、まめに報告する」など、「報告7原則」というものを会社で独自に作り、活力朝礼のマニュアルに沿いながらオリジナリティを取り入れた朝礼を行っています。

「モノづくりは、まずヒトづくりから」という会社の理念に沿って、「挨拶と掃除だけはきっちりやろう！基本的な事をしっかりしていこう！」と日々話しています。就職説明会などで中学生や高校生にも話す機会が多いですが、そこでもまず大事なのは挨拶や掃除のような基本的なことだと伝えています。



入道崎モニュメント（男鹿市）

地域との繋がりを大切にしたい企業を目指す

地元の壊れた橋や道路などを補修して地域住民の暮らしを守るというインフラ整備の仕事は、建設業の一番誇らしいところだと思いますし、地元の方々に感謝される仕事というのは唯一無二だと思っています。だからこそ地元の方々に愛される企業でなければいけないという想いを常にもっています。

ただ、建設業は地域に関わる仕事をしているのに、地域の方々との関わりが薄い会社が多いことが気がかりです。何故かというと、公共事業の入札のように役所を相手にして仕事を受注しているため、地域の方々に目が向いていないという現実があります。だからこそ、地元の同業他社や異業種の会社と共に、地域の方々との繋がりを絶対に疎かにせずお互いに助け合いながら事業をすすめていくということを核としてやっていきたいと思っています。

それと同時に、男鹿石を日本全国にPRしていきたい、また日本に留まらず世界でも男鹿石を使ってもらいたいという想いがあります。ちなみに台湾には親日家の方が多く、日本庭園への憧れを持っている方も多いようなので、知名度向上に繋がるよう海外でもどんどんPRしていきたいと思っています。

また、知名度を上げるという事についてはもう一つの目的があります。弊社では石の職人（石工）を抱えているのですが、全国的に石工が減少しています。石工の高齢化や石垣がコンクリートの擁壁にとって代わられていることが原因だと思っています。昔に比べると石の仕事は減ってきているのが現状ですが、職人を後世に残していくという意味でも「石の仕事というのは絶やしてはいけない」こうした社会的な使命感をもって、これからも仕事をしていきたいと思っています。また、地域の人から必要とされる、地域に無くてはならない企業でありたいという想いを、ブレずにやっていきたいです。



地域に必要とされ、地域の人々に愛される企業を目指す。男鹿石という地域の貴重な資源を原点とする企業だからこそともいえる強い想いが印象的でした。

活力朝礼で 気持ちの良い 挨拶を目指す

株式会社シャディハッピー
代表取締役社長
藤田 徹平 さん

創業から20年。先代の社長（現・会長）がギフト業をはじめてから数えると50年という歴史をもつ、株式会社シャディハッピーの代表取締役・藤田徹平さんに活力朝礼についてお話を伺いました。

時代に合った朝礼の「型」

当社は能代市倫理法人会の立ち上げメンバーです。会長は研修にすごく力を入れてきた人で、倫理法人会の活力朝礼を活用する

以前は、声だしだけで20分くらいやる、統率に特化した硬派な部活のような朝礼を行っていました。

しかし、私の中にはこのままでは今の時代に合っていない

のではないかという思いがあり、12年前、第1回活力朝礼コンクールに出場するのをきっかけに、「職場の教養」や「ハイの実践」を取り入れた朝礼を行うようになり、現在の朝礼の「型」ができました。お陰様で、第1回コンクールで優勝することが出来ました。活力朝礼を取り入れることで、以前より朝礼をマイルドにした感じです。

現在の課題は、朝礼の時間が一番元気がよくて、フロアーに帰ると元に戻ってしまうというジレンマにあります。普段の朝礼の練習の成果をお客様の前で発揮できるかを苦心している状況です。大きな声を出すというより、倫理で言う「朗らかさ」「笑顔を増やす」ことが大切で、理想は、挨拶の前にお客様の名前をつけるような接客です。

お客様には、「いらっしゃいませ」と言うのではなく、「こんにちは、ようこそ」と言うようにしています。威圧的な挨拶ではなく、マイルドさ、朗らかさ、気持ちよさをもった挨拶を目指しています。

お客様を清々しい 気持ちにさせる挨拶

挨拶はとても大事です。「おはようございます」「こんにちは」等の挨拶だけで、お客様を清々しい気持ちにさせることができればと思います。

そのためには大きな声を出さないといけません。小さくても通る声もありますが、基本的には大きな声を出さないと出来ません。今どきこんなことをするのかという社員もいないわけではないですが、当社はサービス業です。礼儀、挨拶が究極的なお客様へのサービスのひとつだと思いますので、大きな声を出したり、声が枯れるまで何かを歌ったりすることが練習なんだと思い、朝礼を行っています。

型をどんどん変えていってもいいのですが、挨拶の質というのが大事だと思っています。時代の流れといったものを敏感に察知して、倫理的な「明朗さ」を突き詰めていきたい。いつまでも「明朗さ」が挨拶のテーマになると思っています。

「挨拶」をサービスのひとつだと考えて、「明朗さ」を大切にしたい挨拶を目指す。とても貴重なお話をお聞きすることができました。ありがとうございました。